



# 令和2年度 ふくしま高校生 社会貢献活動コンテスト本選

## 報告書



2020年12月19日、福島市のコラッセふくしまにて「令和2年度 ふくしま高校生 社会貢献活動コンテスト」本選が開かれました(主催:福島県教育委員会・一般社団法人ふくしま学びのネットワーク(運営事務局)、共催:福島大学アドミッションセンター)。予選の書類審査を通過した県内各地の11グループが一堂に会し、ボランティア・復興・国際交流・まちおこし・製品開発など、自分たちが行っている社会貢献活動について発表しました。

福島県内の高校生の社会貢献活動はとても活発で、主体的な課題発見・解決型の学習や、サービスラーニング(活動を通じた学び)としても注目されています。報告書では、本選出場グループの活動をご紹介します。

活動紹介

グループ名 > 葵高校 家庭クラブ

活動名 > 他団体交流(障がい者支援施設との交流会)

2016年から、地元の障がい者支援事業所との交流活動を継続して実施しています。様々な人との交流を通じて「心のバリアフリー」が実現した社会を達成するために、どのような交流会にするか、生徒たち自身が企画を考えています。

今年の交流会で実施した「自己紹介～みんなが楽しめる要素を盛り込んで～」では、TikTokや画像加工アプリを活用して自己紹介とダンスを披露したところ、利用者の方も一緒に踊ってくださり一気に楽しい雰囲気になりました。さいころの面を組み合わせさせて絵を作る「絵合わせゲーム」では、景品としてその絵が描かれたキーホルダーをプレゼントしました。また事業所の方が企画したゲームでは、合理的配慮を踏まえたインクルーシブな活動を行い、同じ競技をともにする楽しさを体感しました。

心のバリアフリー、合理的配慮が日常になっている社会の実現に向けて、今後も活動を続けていきたい、と力強く発表しました。



活動紹介

グループ名 > 安積高校御館校 総合的な学習・探究の時間 地域環境グループ

活動名 > 私たちもみてますよ ～美化活動で中田町への恩返し～

文化と自然の豊かな自分たちの町を保つため、美化活動に取り組みました。高校への通学路には、ポイ捨てを防止するための看板がたくさんあります。調べてみると、中田地区では50カ所以上に看板が設置されていることが分かりました。にもかかわらず、多くのゴミが捨てられていることにショックを受け、活動を始めました。

活動はゴミ拾いに留まらず、看板を見えるようにするための草むしりなども行いました。活動すると、以前とは段違いに綺麗になったと実感することができます。生徒たちの活動は地域の方々にも広がっていき、メディアにも取り上げられました。自分たちの活動後もまたポイ捨てが起きている現実を目に向け、さらなる取り組みとして、生徒一人一人が思いを込めた、工夫が凝らされた看板の作成も行いました。

「中田町での取り組みから、日本全体でのポイ捨て問題を少しでもなくすことができれば嬉しい」と意気込みを語りました。



## 活動紹介

グループ名 〉 大笹生支援学校「作業学習」地域貢献隊

活動名 〉 私たちにできることで社会に貢献しよう！

高等部での週8時間の「作業学習」の時間や、卒業後の就労を見据えた「校内現場実習」での学びを活かして、地域に根差した社会貢献活動を行っています。

地域の学習センター及び高校での清掃活動は「日頃お世話になっている場で、何かできることはないか」と、恩返しの意味を込めて行っています。幼稚園では清掃活動に加え、パラリンピック競技「ボッチャ」等の体験会も実施しました。活動は、山車格納庫の看板作成や、園児から要望があったアニマルチェア・ベンチの製作、手の不自由な人のお椀づくりや、外出できない人たちのための出前カフェの提供など、多岐にわたります。いずれの活動でも、使う人のことを考え、工夫を凝らしているのが特徴です。生徒たちの丁寧な作業は、多くの人の笑顔に繋がっています。

コンテスト本選では「誰かのために行動することで、必要とされ、自分の自信につながる」と、思いを込めて発表しました。



## 活動紹介

グループ名 〉 光南高校 商業研究部

活動名 〉 高校生がオンラインで教える複式簿記講習会

Zoomを利用し、複式簿記を地域の方に教えるオンライン講習会を実施しました。活動の背景には、地域の方から「簿記を学びたいが、独学だと難しい」という声がある一方で、矢吹町には地域での簿記講習会が存在していなかったことがあります。地域の方に周知するため、商工会などたくさんの方に協力して頂きながら、地元企業等への宣伝をさせてもらいました。SDGsの目標17「パートナーシップで目標を達成しよう」の重要性を実感し、連携して地域貢献することの大切さを学びました。

2社の会計担当者さんから参加希望の連絡を頂き、最初の活動日が決まりました。試行錯誤を繰り返しながらオンライン講習会を継続した結果、企業の方からも「簿記を学ぶことで、日ごろの経理の理解に繋がった。学んでよかった」などの声を頂きました。

今年度はコロナ禍のためオンラインでの講習会実施となりましたが、「今後はオンラインだけではなく対面での実施も検討したい」と展望を語りました。



活動紹介

グループ名 > 白河旭高校 2年3組「小さなことから始め隊」

活動名 > めざせ!こども食堂「ピア先生」～SDGs校内研修の学びを活かして～

外部講師の方をお招きして実施した「SDGs校内研修」で、子どもの貧困やジェンダーなど世界に存在する多くの課題について学び、自分たちにも何かできないかと考え、白河市のまかないこども食堂「たべまな」で活動を行うことを決めました。

方針として、相手が何を必要としているのかを考えながら、同年代として子どもに寄り添う「ピア先生」を目指しました。取り組みの一つとしては、クリスマスに向けて、校内で募金活動を行い、感染症対策になる石けんやハンドクリームを手作りして、お菓子とカードと一緒に子どもたちにプレゼントする企画を考えました。ハンドクリームには自然素材である蜜蝋を使用することに決め、自分たちが中心となってSDGs校内研修を実施してみんなでクリームを作りました。

コンテスト本選では「この活動のおかげで、小さなことから達成していくことの重要性を学んだ」と報告しました。



活動紹介

グループ名 > 相馬農業高校 食品科学科 あんぱんの畑チーム

活動名 > 「アンパンの畑」を活用して地元南相馬を元気にする活動

農業と食の繋がりを伝え、地元南相馬を元気にするため多岐にわたる活動をしています。

コムギなどあんぱんの原材料となる作物を栽培する「あんぱんの畑」を農場につくりました。子どもたちが食べ物の好き嫌いをなくしてくれるよう収穫体験授業を実施し、クイズなどを行いながら子どもたちに楽しみながら学んでもらうことができました。また、原料の栽培からあんぱんに加工するまでの体験を通して学んでもらうため、小学校や幼稚園へ「あんぱんのプランター」の贈呈も行いました。さらに、「あんぱんの畑」の隣に「ベンケイの畑」を設け、南相馬市の郷土料理である「ベンケイ」を後世に伝えるための活動もしました。イノベーションコースト構想で販売する弁当「イノ弁」に「ベンケイ」を使ったおかずを提案し、発信してきました。

生徒たちは「活動を通じて、郷土についてより深く知ると同時に、誇りを持つことができるようになった」と報告しました。



## 活動紹介

グループ名 〉 平工業高校 生徒会

活動名 〉 国際貢献活動／社会貢献活動

「すべては喜んでくれる人たちの笑顔のために」という理念のもと、平工業高校生徒会は2001年から長期にわたる貢献活動を継続してきました。

今年度はコロナ禍だからこそ、自分たちに新たにできることは何かと模索しました。工業高校ならではの活動として、学校図書館で安心して学習できるよう、感染防止のための衝立を製作し、さらに近隣の中学校にも寄贈しました。感染予防の啓発活動も実施し、校舎内の除菌活動も行いました。その他にも、台風等で被害を受けた地域でのボランティア活動や、アルミ缶回収による老人ホームへの車いす寄贈も行いました。国際貢献としては募金活動をはじめ、インクカートリッジの回収、ジャージや運動靴の回収、ペットボトルキャップ回収などを通して、様々な寄付・寄贈を継続的に実施しています。

先輩から受け継いだ理念を引き継ぎ、さらに発展させて後輩へと継承していく姿に、会場からは大きな拍手が送られました。



## 活動紹介

グループ名 〉 福島商業高校 福商 商品開発チーム

活動名 〉 地域貢献活動 福島ゆかり保育園 手作りプレゼント持参ボランティア

福島商業高校の生徒たちは学校で学んできた商品開発のノウハウを活かし、多くのコンテストや発明工夫展などで高い評価を得てきました。2019年からは、自分たちが開発した作品を身近な人に届ける社会貢献をしたいと考え、地元の保育園である「福島ゆかり保育園」にプレゼントをする活動を始めました。

交流会では、高校生は工夫が凝らされた様々な手作りのおもちゃをプレゼントし、園児からもプレゼントをもらいました。「くるくるシャボン玉」は楽しめて美しいものとして、特に0歳児に大人気でした。今年は高校生からのプレゼントのお返しに、園児からのプレゼントに加え、NHK2020応援ソング「パプリカ」の合唱とダンスをプレゼントしてもらいました。園児にとっても、高校生にとっても楽しい時間になりました。

コンテストでは交流会の様子も動画で発表し、「お互いにエールを送り合い、お互いに笑顔になれる活動は、たくさんの学校に広がって欲しい」と報告しました。



活動紹介

グループ名 〉 福島東稜高校 特別進学コース

活動名 〉 福島PR動画制作

福島東稜高校の特別進学コースでは、グローバル社会で活躍できる人材育成のための学習が展開されています。その中で、外国人旅行者が都心などに集中してしまう現状から、福島を英語で世界にPRしていきたいと考え、活動を始めました。

外部講師の方による指導も仰ぎながら、パンフレットや動画の作成を行ってきました。動画作成では、飯坂町・会津・ままだおるの3つの班に分かれ、取材や撮影・編集などを全て生徒の間で行いました。飯坂町班は「ゆったりと楽しめる旅行」をテーマに旧堀切邸や円盤餃子などをPR。会津班は郷土料理であるこづゆの作り方を紹介する動画を作成しました。ままだおる班は、このお菓子の笑顔・優しさ・温かさというイメージを多くの人に知ってもらえるよう、ストーリー性のあるドラマ仕立ての動画を作成しました。

動画は英語の字幕を効果的に挿入し、YouTubeに投稿した上でSNSなどでも紹介して頂き、現在も大勢の方に視聴されています。



活動紹介

グループ名 〉 ふたば未来学園高校 アグリ・ビジネス探究ゼミ

活動名 〉 風評被害なんて言わせない

授業「未来創造探究」の一環で、農家さんを元気づけたいという思いから活動を始めました。専門家による講義や統計調査、地元の農家・経営者への聞き取りを通して、福島の農作物に対する風評被害の深刻さを理解しました。生産者・消費者のどちらにアプローチするかを考えた上で、「自分たちの身近で、困っている農家さんを元気づける活動をしたい」と方針を定めました。

売上を伸ばすことだけが農家さんの幸せではないと気づき、「おにぎりレタープロジェクト」を企画しました。農家さんのお米でおにぎりを作り、試食してもらった人の感想を農家さんに届けるという活動です。また、地元産のお米の美味しさをたくさんの人に実感してもらうため、食べ比べをする「お米グランプリ」も実施しました。

活動は、生徒たちが開発した商品の売上金などで実施し、「農業と商業を組み合わせ風評被害を払拭するという、一つのモデルを示すことができた」と発表しました。



活動紹介

グループ名 > ふたば未来学園高校 富岡さくら復興プロジェクト

活動名 > ～届け!さくらタピオカ～

自分の地元であり、夜の森の桜で知られる富岡町に、再びたくさんの方が戻ってきて復興してほしいという思いから始めた活動です。インパクトが大きく、味覚が記憶に残りやすいタピオカを使って活動することを考え、富岡町のシンボルである桜をイメージしたドリンク「さくらタピオカ」を開発しました。

コロナ禍に直面し、当初は販売が思うようにいきませんでした。地元のカフェなどと連携することで取組は広がっていきました。販売の際には、プラスチックのふたを回収して桜の花を表現する「福島版デポジット制」も実施し、海洋プラスチック問題にも取り組みました。活動は広がり、さくらタピオカを地域のカフェで定番メニュー化して頂いたりもしました。メディアでも報道され、富岡町のPRにも繋がっています。

コンテスト本選では継続した粘り強い取組を発表した後、「大きなことでなくても、地元のための小さな活動そのものが復興なのでは、と気づいた」と報告しました。



## サービスラーニングとは

サービスラーニング(SL)とは、地域や社会に貢献する活動を通し、さまざまな知識や技術を身につけたり、自己肯定感や学びのモチベーションを高めたりする学習方法のことで、「活動を通じた学び」と言い換えることができます。米国で1980年代以降に普及した比較的新しい学習方法であり、近年は日本の中等・高等教育においても注目が高まっています。「ふくしま高校生社会貢献活動コンテスト」では、県内の高校生たちの社会貢献活動をサービスラーニングの観点からもとらえ、応援しています。

## コンテスト本選の様子を動画配信中!

今年度のコンテスト本選は新型コロナウイルス流行の影響で、感染防止対策を行ったうえで開催し、一般見学を行いました。当日の様子は、「ふくしま学びのネットワーク」公式サイトで動画を配信中です。ぜひご覧ください。

<https://www.fks-manabi.net/>



今年度コンテストのポスター

コンテスト本選では各グループのプレゼンテーションと、審査員の先生方からの質疑応答が行われました。どのグループも「自分たち高校生の力で、地域や社会をより良くしたい」という思いに満ちた、素晴らしい活動ばかりでした。審査員の先生方による厳正な審査の結果、別表の通り各賞が決定しました。

受賞者には、福島県教育委員会の鈴木淳一教育長と、審査委員長の佐野孝治先生(福島大学副学長・アドミッションセンター長)から賞状が贈られました。みなさん、本当におめでとうございます！



## 令和2年度 福島高校生社会貢献活動コンテスト 本選結果

### 福島県教育委員会より

#### 最優秀賞

- ふたば未来学園高校 富岡さくら復興プロジェクト

#### 優秀賞

- 白河旭高校 2年3組「小さなことから始め隊」
- 相馬農業高校 食品科学科 あんぱんの畑チーム
- 平工業高校 生徒会

#### 入選

- 葵高校 家庭クラブ
- 大笹生支援学校「作業学習」地域貢献隊
- 光南高校 商業研究部
- 安積高校御館校 総合的な学習・探究の時間 地域環境グループ
- 福島商業高校 福商 商品開発チーム
- 福島東稜高校 特別進学コース
- ふたば未来学園高校 アグリ・ビジネス探究ゼミ

### 福島大学アドミッションセンターより

#### 福島大学アドミッションセンター長賞

- 安積高校御館校 総合的な学習・探究の時間 地域環境グループ
- 大笹生支援学校「作業学習」地域貢献隊
- 光南高校 商業研究部
- ふたば未来学園高校 アグリ・ビジネス探究ゼミ

#### 社会貢献賞

- 本選出場の全グループ

令和2年度 福島高校生 社会貢献活動コンテスト本選 報告書 (2021年2月発行)

主催 福島県教育委員会、一般社団法人ふくしま学びのネットワーク (運営事務局)

共催 福島大学アドミッションセンター

※本報告書 PDF 版は「ふくしま学びのネットワーク」公式サイト (<https://www.fks-manabi.net/>) からダウンロードできます。